

令和4（2021）年度 IAMASの活動と運営報告





# 情報科学芸術大学院大学

Institute of Advanced Media Arts and Sciences

— 目次 —

組織の概要	3
活動の概要	10
運営の概要	25

## IAMAS の目的

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] は、科学的知性と芸術的感性の融合を目指した学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、未来社会の新しいあり方を創造的に開拓する「高度な表現者」を養成するとともに、学術文化の向上及び地域の振興に寄与することを目的に、岐阜県が2001年に開学した大学院大学です。



武部瑠人（2020年卒業）『Se[real] Lighting Killer』  
（2020アジアデジタルアート大賞展FUKUOKA 学生カテゴリー エンターテインメント（産業応用）部門 入賞）

### - 沿革

- 1996 岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー（IAMAS）を設立
- 2001 情報科学芸術大学院大学を開設  
メディア表現研究科（修士課程）を設置  
大学附属研究機関メディア文化センター（CMC）を設置  
大学附属図書館を設置
- 2005 リンツ美術工芸大学と交換留学生協定
- 2010 メディア文化センター（CMC）を産業文化研究センター（RCIC）に改名
- 2012 岐阜県行政改革アクションプランにより国際情報科学芸術アカデミーを廃止
- 2014 ソフトピアジャパン地区へ、全学移転
- 2021 メディア表現研究科（博士後期課程）を新設

## 教 育 目 標

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力を授け、現代社会の諸問題に応答できる人の育成を教育目標として掲げています。

### - 学位授与方針（ディプロマポリシー）

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、科学技術と哲学・思想的視野をともなう新しい文化を創造する高度な表現者の育成を目標とし、その目標のために編成されたカリキュラムにおいて、所定の単位を取得することに加え、論文審査あるいは作品・論文審査、及び最終試験を合格した学生に修了を認定し、学位を授与します。

その際、以下の点が問われます。

- 専門性を有した自立したアーティスト・デザイナー・エンジニア・研究者・教育者として、必要な能力を身につけたか。
- 高い倫理性と強い責任感を意識し、未来の人間の生き方、幸福を追求しながら、研究が現代社会の諸問題に対する応答として成果を得ることができたか。
- 研究領域によらず様々な分野を専門とする人々とも互いに積極的に関わりあい、その交流の中から生み出される「新しい知」のあり方を身につけたか。

### - 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力修得を目指し、体系的に専門性を獲得するための実践的かつ領域横断的な科目を配置し、講義、演習、実習等を適切に組合せた高度な授業を開講するとともに優れた研究指導を行います。

- 高度な表現者としての素養を身に付けるとともに、社会の多様な要請に対応した幅広い知識と実践力を修得するため、プロジェクト科目および特別研究科目を設置する。
- 自らを批評し研究成果の社会的意義を問うための総合科目を設置する。
- 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために専門科目および制作演習科目を設置する。
- 問題発見力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、研究において必須となる汎用的な能力を育成するため導入科目を設置する。

### - 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

多様な背景を持った学生により高度な学習機会を与えるために、積極的な情報発信を行い、面接を主体とした多様な入学者選抜を実施しています。その際、以下のような学生の入学を想定しています。

- 自らの専門領域を活かし、他分野と横断的な探求をする。
- 情報社会の新しいあり方を創造的に開拓する。
- 人や社会との新しい関係性を考え、次世代の産業を創出する。
- 様々な形態の芸術表現から新しい文化を創造する。
- 情報やコミュニケーションに新たな形を与え、地域社会に提案する心豊かな社会の実現をめざす。

全ての大学等において、以下の三つの方針を一貫性あるものとして策定し、公表するものとする。

①修了認定・学位授与の方針、②教育課程編成・実施の方針、③入学者受け入れの方針

（学校教育法施行規則一部改正平成28年3月31日改正、平成29年4月1日施行）

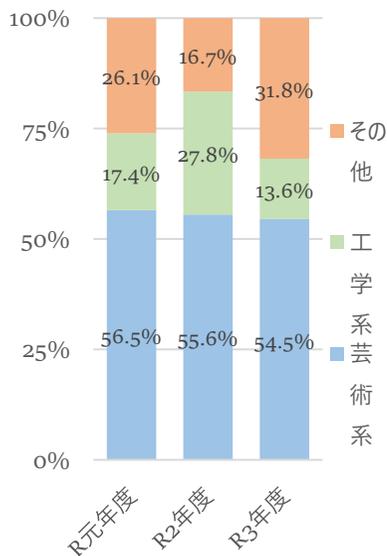
# 学 生

- 主に芸術、情報、工学、社会科学の出身者に加え、最近では、より分野の多様化がすすんでいます。
- 常に社会人経験者が3~4割を占め、教員経験者も1割程度となっています。
- ダブルマスター入学者も徐々に増加しています。
- 全国各地からの学生構成となっています。

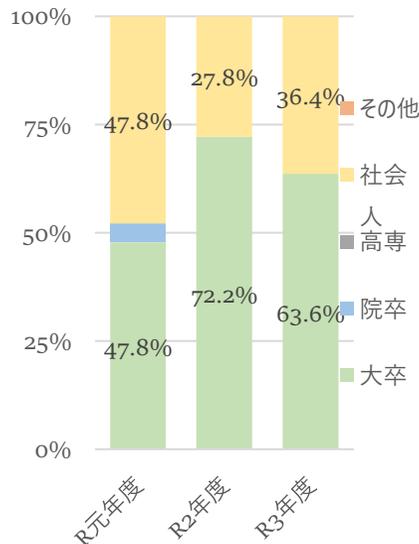
## - 学生受入状況 (人)

	入学者 (倍率)	性別		出身地別			経歴別							
		男	女	県内	県外	外国	大卒業	院修了	高専	研究生	専門 学校等	社会人 (文系)	社会人 (理系)	社会人 (教員)
R3年度 (修士)	22 (1.6)	13	9	7	12	3	14			1		1	3	1
(博士)	3 (2.0)	3			3							1	1	1
R2年度	18 (1.8)	10	8	2	11	4	13		1		1	3		
R元年度	23 (1.6)	15	8	2	20	1	11	1			5	6		
H30年度	23 (1.7)	16	7	2	21	0	15	1			3	3	1	
H29年度	17 (1.8)	12	5	1	14	2	12				1	2	2	

## - 出身分野 (%)



## - 経歴 (%)



## - 出身大学等 (過去3年)

- R3- 名古屋芸術大、多摩美術大、豊田工業大、東京藝術大、天津工業大、武蔵野美術大、お茶の水女子大、金城学院大、愛知工業大、九州大、グロービス経営大学院大、同志社大、名古屋学芸大、京都芸術大、慶応義塾大、中国美術学院、日本体育大、関西学院大、スタンフォード大、
- R2- 慶応義塾大、金沢工業大、名城大、日本大学、秋田公立美術大、静岡大、京都造形大、武蔵野美術大、東京工芸大、東京都立大、九州大、広島市立大
- R元- 京都精華大、お茶の水女子大大学院、東京理科大、武蔵野美術大、横浜国立大、東京藝術大、金沢美術工芸大、慶応義塾大、筑波大、九州大、多摩美術大、立命館大、千葉大、東京大、名古屋芸術大、ロンドン芸術大、Interaction and Moving Image、London college of communication

# 進路

- 教育機関や文化施設、広告やデザイン系企業への就職が多い傾向となっています。
- 近年はベンチャー型ものづくり系企業への就職希望者が増加しています。
- 修了生ベンチャー企業（㈱ライゾマティクスや㈱GOCCO、など）で働く者も増加しています。
- フリーランスや自営でデザインやアートなどクリエイティブな仕事をする者は3割程度あります。
- 近年、県内での就職や自営、あるいは居住を希望する修了生が増加し、東海圏における修了生の定着率は高くなっています。

## - 進路状況（人）



## - 修了生の進路

### - 就職先（過去の主な就職先）

#### - 県内

㈱インフォファーム、㈱TAB、本巣市地域おこし協力隊、岐阜各務野高等学校、中村直永デザイン事務所、Fresh Lab Takayama、（公財）ソフトピアジャパン、㈱GOCCO、ちよいみせキッチン

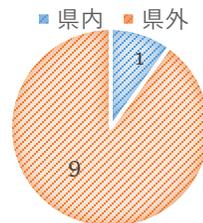
#### - 県外

NHK、名古屋音楽大学、（公財）京都芸術文化協会京都芸術センター、㈱オルタスジャパン、多摩美術大学、㈱サイバーエージェント、㈱ケイズデザインラボ、ユカイ工学㈱、㈱日本テレビアート、㈱二番工房、京都造形芸術大学、㈱プロノハーツ、Noiz Architects、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、(有) BANZAI CREATIVE、愛知淑徳大学、Takram desing engineering、㈱電通、㈱博報堂プロダクツ、㈱カヤック、（特非）こどもNPO、山口芸術情報センター[YCAM]、京都精華大学、秋田公立美術大学、㈱ゼオ、㈱QUANTUM、神戸芸術工科大学、㈱ライゾマティクス、名古屋芸術大学、㈱Hakbee Lanka、㈱桃鶴堂、㈱丹青社、1-10 drive、都城市立図書館、東京藝術大学、静岡文化芸術大学、同志社女子大学

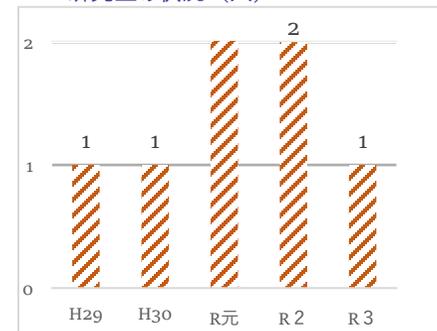
#### - 進学

京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程、慶應義塾大学大学院後期博士課程

## - 就職先県内外別R3（人）



## - 研究生の状況（人）



# 組織図



## 教職員数

	教授	准教授	講師	助教	教員合計 (左計)	事務局 職員	専門職等
大学院大学	13	5	1	0	19	11	11
(うち女性)	(1)		(1)		(2)	(3)	(5)

## RCIC

- 産業文化研究センター（Research Center for Industrial Culture 通称RCIC）は2011年度より開設されたIAMASの附置研究機関です。
- 産業文化に関する学際的・総合的な研究を行うとともに、学外の諸機関との連携を図りつつ、本学の社会的機能を維持・発展させることを目的とし、「地域連携・産学官連携活動」「広報・情報アーカイブ活動」「文化活動」の3つを軸として活動しています。
- 近年は、県内の自治体や企業とのネットワーク構築や、IAMAS卒業生との連携・協力等によるIAMASネットワークの強化にも力を入れながら、様々な活動を展開しています。

### 地域連携・産学官連携活動

#### ❖ イアマスこどもだいがく

IAMASの研究や設備を用いた子ども向け講座で、様々なメディアを使用したユニークな表現体験から、テクノロジーを多様に活用する力、延いては新しい「もの」や「こと」を創造する力の育成を目指し、2017年から大垣市と連携し毎年実施している。

##### イアマスこどもだいがく2021

###### せいぞろワークショップ

- 第1回：2021年10月2日(土) 14:00 - 16:00
- 第2回：2021年10月3日(日) 14:00 - 16:00
- 講師：伊澤宥依(RCIC)

###### 映像プログラミング～クリエイティブコーディング～

- 第1回：2021年10月23日(土) 14:00 - 16:00
- 第2回：2021年10月24日(日) 14:00 - 16:00
- 講師：角伊織(体験拡張表現プロジェクト)



##### イアマスこどもだいがくオンライン

###### どうじにドット

- 第1回：2020年8月8日(土) 10:00 - 12:00
- 第2回：2020年8月22日(土) 10:00 - 12:00
- 講師：野呂祐人(RCIC)・工藤恵美(修士2年)

###### かきあたりばったり

- 第1回：2020年8月29日(土) 10:00 - 12:00
- 第2回：2020年8月29日(土) 14:00 - 16:00
- 講師：佐々木紘子(RCIC)

共催 大垣市情報企画課、IAMAS



#### ❖ イアマスこども研究会

岐阜県内外の子どもの学びの関係者たちが集まり、その経験や知識を交流、共有することで、より発展した研究や実践を行うことを目的に、意見交換会を行った。

- 第1回：2020年8月25日(火) 14:00 - 17:30
- 第2回：2020年10月20日(火) 14:00 - 16:00
- 第3回：2021年3月26日(金) 14:00 - 17:00
- 講師：会田大也(特別非常勤講師)

発表：大垣市情報企画課  
岐阜県美術館  
佐々木紘子(RCIC)  
野呂祐人(RCIC)  
工藤恵美(修士2年)  
星安澄(修士2年)

意見交換：宮下十有准教授(福山女学園大学)

岐阜博物館、他教育活動に携わるIAMAS卒業生や県内外の企業等が参加



### 広報・情報アーカイブ活動

#### ❖ IAMAS Graduate Interviews

多様な分野で活躍する卒業生たちの現在の活動を軸に、これまでの活動やIAMAS在学時の活動との関係について等、教授等がインタビューとなり取材する企画。

##### 2020-21年度実施インタビュー

- Vol.19 南原鉄平(南原食堂 店主)×金山智子教授 (場所：南原食堂)
- Vol.20 ウエヤマトモコ(音と人・ミミ島 代表)×三輪真弘教授 (場所：日本昭和音楽村)
- Vol.21 中路景暁(アーティスト)×クワクポリヨウタ教授 (場所：岐阜県美術館)
- Vol.22 川崎鋼平(株式会社LIFULL 執行役員)×鈴木宣也学長 (場所：オンライン)
- Vol.23 内田聖良(コンテンツポラリサーキットベンダー)×前林明次教授 (場所：オンライン)
- Vol.24 高尾俊介(クリエイティブコーダー)×前田真二郎教授 (場所：オンライン)
- Vol.25 三原聡一郎(アーティスト)×松井茂准教授 (場所：オンライン)
- Vol.26 平塚弥生(ワードビジネスコンサルタント)×金山智子教授 (場所：ちよいみセキツン)



### 文化活動

#### ❖ OPEN HOUSE

メディア表現研究科の教員と在学生が、多様な研究成果を発表する「フォーラム」。科学的知性と芸術的感性の融合を目指した理論と応用を実践する研究科の取り組みを来場者と共有することを目的として、毎年開催している。

##### iamas open\_house: 2021

2021年7月22日(木)-23日(金) 10:00-17:00  
実施形態：オンライン(《i.frame》)

\* 《i.frame》は小林茂教授・加藤明洋・永松歩が開発した独自プラットフォーム



##### IAMAS OPEN HOUSE 2020

2020年7月23日(木)-24日(金) 10:00-17:00

実施形態：オンライン(Discord, YouTube Live, Zoom)

#### ❖ Ogaki Mini Maker Faire 2020

様々な分野のつくり手「Maker」たちが全国から集まり、つくったものを見せ、語り、その楽しさを共有するDIYの祭典「Maker Faire」を隔年で企画、運営する。

2020年12月5日(土)-6日(日)  
物理会場：ソフトピアジャパンセンタービル  
オンライン会場：YouTube, Twitter

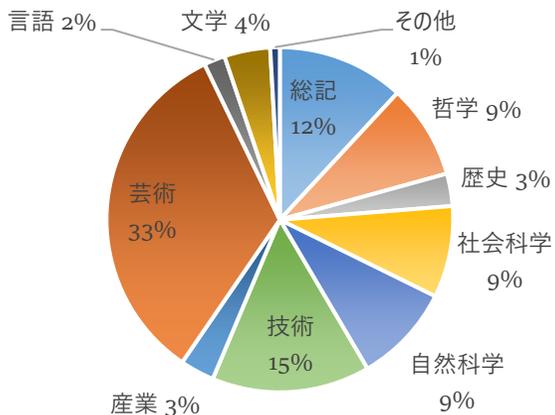
共催 株式会社オライリー・ジャパン、IAMAS



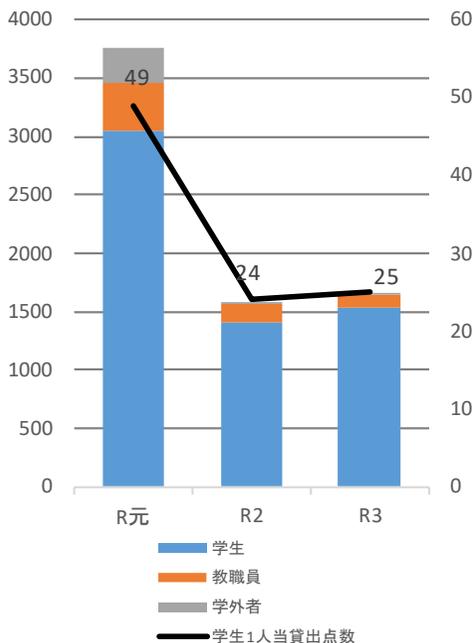
# 附属 図書館

- 教育研究支援
  - ・メディア表現の教育研究に資する資料を収集しており、蔵書構成では技術や芸術の分野の割合が大きくなっています。
  - ・教職員の協力でテーマを決めての資料展示や、定期的な新着図書案内のメール配信などをおこない、利用促進を図っています。
- 地域貢献
  - ・学外者の入館者数は移転後1,000人以上に増加。公開講座を毎週開催し、地域に開かれた図書館として機能しています。  
(新型コロナウイルス感染症対策により、R2年度より学外者の利用を休止中)

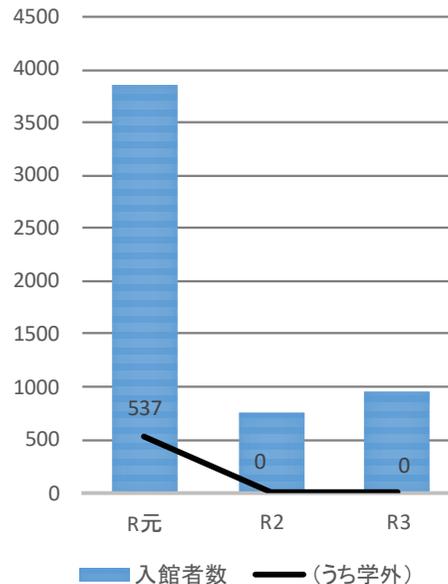
- 分類別蔵書割合



- 貸出点数



- 入館者数



- 蔵書数 (R3.11現在)

図書	46,882冊
視聴覚資料 (DVDなど)	3,240点
雑誌	158種
データベース	3種
電子ジャーナル	6種

- 公開講座「今週の一冊」

小林昌廣教授  
毎週木曜 午後6時半～  
※新型コロナウイルス感染症対策により休止中

- 資料展示

「参考文献を読む」(4月)  
「ウィズ・コロナ」(6～7月)  
「バイオアート」(7～10月)  
「論文作法」(10月～1月)



## 教 育

- IAMASでの授業は、個人、グループ、社会という構成を特色としています。「特別研究科目」は研究活動に対する課題解決に必要な方法等を習得するゼミ形式によるチームティーチングを特色とする科目です。
- 制作演習は、プロジェクト実習や個人制作を行うにあたって重要と思われる実践的なスキルを習得することを目的とした授業です。
- 2019年度から「社会人短期在学コース」を設置しました。また、2021年4月に博士後期課程を開設しました。

### - 博士後期課程の設置（2021年4月開設）

IAMASは、修士課程のみの大学院大学として、最新の科学技術や文化を吸収しながら先端的な「芸術表現やデザイン、新しいコミュニティやものづくりのあり方などを社会へ提案し、実践的な研究を通じて「高度な表現者」の育成を目指してきました。

しかし、大学院において設置が一般的な博士後期課程が無いことで（国公立大学における博士課程設置率は約85%）、優秀な人材が他大学を選択したり、IAMASを卒業後に、さらに研究を継続したい学生がやむを得ず他大学の博士課程に進学するなどの課題が生じています。

そのため、修士2年、博士3年、計5年間の一貫教育研究体制を整備し、大学の魅力度を高め、社会実践力のある研究成果を生み出せる体制整備を目的として、博士後期課程の新設を申請し、2020年10月に文部科学大臣より認可を受け、2021年4月に開設しました。

[博士後期課程]

開設年月：2021年4月

修業年限：3年

入学定員：3人

[2021年度入学者]

出願者数：6名

入学者数：3名（男性3名）

うちIAMAS修士卒業生：2名

県内：県外 0名：3名

### - 社会人短期在学コースの設置

本学は、2019年度より社会人短期在学コースを設置しました。

このコースは、作品制作や社会活動など何らかの実績がある人々や、企業などで先駆的な研究・開発テーマに取り組んでいる人々を対象とし、本学でそれらの実績を基に研究を進めることを前提として、通常は2年間の大学院修士課程を1年間に凝縮したカリキュラムで実施するコースです。2021年度は、本コースに2人が入学しました。

[コースの特徴]

通常は2年間の修士課程が1年間に凝縮されている他は全く同じ内容のコースとなっており、夜間や休日に開催される独立したコースではありません。

このため、自らの活動を振り返り、関連する分野について学び、徹底的に言語化することに集中できます。また、同時期に在学する他の学生と一緒にチームとして活動することを通じて、異分野の刺激を受け、修了後も継続する関係性を構築することができます。

## 研究

### プロジェクト型研究:

- IAMASの研究の中心の一つにプロジェクト研究があり、研究の関心や方向性が示されます。これからの社会における創造や新しい社会を創るデザインをテーマにした研究が増えています。
- プロジェクト研究では、広い視野と企画力、組織力、加えてアイデアを実現に導くマネジメント能力などを身につけることを目指します。

### 体験拡張環境プロジェクト

リアルタイム、インタラクティブな体験には高度なテクノロジーと、テクノロジーを使いこなす表現手法とコンテンツが必要になる。コーディング技術と表現により可能になるクリエイティブコーディングや表現としてのライブコーディングによる音楽や映像を利用した体験やAR、MR、VRと行ったxR技術により実空間とか仮想空間を融合した体験空間の構築、また視覚や聴覚を以外の各種感覚を用いることによる体験の複合化など、高度な技術と表現による体験拡張は急激に進化している。本プロジェクトでは、テクノロジーを使いこなし、テクノロジーに適した高度な表現を研究することで、新たな体験拡張の創造を目指す。音楽イベントNxPC.Labの活動と連携することで、研究を展開する場として効果的に利用し、研究・展開を融合した実践的な研究を進める。

研究代表者：平林真実教授、研究分担者：前田真二郎教授、小林孝浩教授  
2021年度～

#### <主な活動>

テクノロジーを用いた表現としてVR/AR/MRといったxRを利用した作品やクリエイティブコーディングに基づく作品等へ向けての研究・開発を行っている。研究成果はオープンハウス他、コンパ等への応募、連携して実施しているNxPC.Labの音楽イベント等にて実験と実践を行っている。また、東京コンピュータサービス（株）とMRによる音楽演奏システムAvatar Jockeyの共同研究も実施している。

IAMASオープンハウスにおけるオンライン展示会場の制作と作品展示（7月）  
情報処理学会インタラクション2022 発表（2022年3月）  
NxPC.Lab における音楽イベント

- NxPC.Live vol.49 PRISM @YouTube Live 2021.6.20
- NxPC.Live vol.50 [窓] OPENHOUSE2021 @YouTube Live 2021.7.22
- NxPC.Live vol.51 望 @ソフトピアジャパンせせらぎ広場 YouTube Live
- みちにわSDGsマルシェ前夜祭 NxPC.Live @名古屋市錦二丁目
- 栄駅クリスタル広場 映像展示 L.E.D.プロジェクト 2022.1
- CLUB TRAIN 2022 @樽見鉄道 2022.1.15



### Community Resilience Research

大量に生産・消費・廃棄され続けるモノが生痕化石となって、新たな地層を形成しており、社会生態系の破壊の象徴とされる、この「人新世」の時代を、私たちはどう生き、どう変えていくかが求められています。本プロジェクトでは、地域の問題を「社会生態系システムのレジリエンス」として捉え直し、これからの持続可能な地域社会への移行を望む私たちにとって何が大切なのかを探究していきます。社会生態系システムという視点から、各メンバーがフィールドワークを通して見つけた「もの」について、リサーチを深めながら考察し、それを表現していきます。

研究代表者：金山智子教授、研究分担者：小林孝浩教授、吉田茂樹教授  
2020年度～

#### <フィールドワークを中心とするリサーチ>

2021年5月～12月までに根尾地域を中心に22回フィールドワークを実施、古い集落に住む人たちへインタビューを繰り返しながら、衣・食・住、エネルギー、産業、文化、自然といった視点から、数百年前から現在までの変容と、それに対応しながら暮らし続けるレジリエンス力の関係についてリサーチしました。同時に、そこで築かれ、今も大切にされている生活文化の営みへ参加し、五感を通して理解も行っています。各自、調査から見出した「もの」を表現として可視化させ、IAMAS2022および、岐阜県博物館（2022年10月）で伝えていきます。



## タイムベースメディア・プロジェクト

蓄音機や写真、映画の発明以来、人類は「装置を用いた表現」の可能性を様々な形で広げ、「いま、ここに」存在しない出来事（擬似）体験することが日常のこととなった。特に映像や音響を含むあらゆる「表現」がデジタル化され、それらを次々と統合していくネットワーク上の「新しい時空間」の出現はまさに私たちにとって「第二の現実」としての存在感を獲得している。このような状況の中で、かつて「芸術」と呼ばれていたものは、私たちにとっていま、どのような意味を持つものなのか？このプロジェクトでは特に時間-内芸術、すなわち時間的経過の中で行われる様々な「表現」に注目し、「装置を用いた表現」と伝統的な芸能の習得／実践双方を通して、この問題に取り組む。それは「機械」と私たちの身体との関係をめぐる探求であり、さらにメディアと人間存在との関係性を問うことでもある。

期間：2018年度～

研究代表者：三輪眞弘学長、研究分担者：前田真二郎教授

### ● 2021年度の活動

4年目を迎えるタイムベースメディア（TBM）プロジェクトでは、時間芸術に着目した表現研究を進めた。その一環として特に、IAMAS OPENHOUSE 2021にて「ライブ配信」による作品発表ではTBMプロジェクトや所属するメンバーの活動紹介を主軸とし、twitterやzoom、YouTube live などさまざまなツールを利用し、ライブ配信の新しい形式や可能性を模索した。内容はイム・ヒヨムムックによる＜aphasia 失語症（2010）/ Mark Applebaum＞のパフォーマンス、オリンピック開会式当日に東京に行ったメンバーとのテレビ電話、ジェネラティブ・ストリーミング作品の紹介などを盛り込み、その後ポータルサイトからzoomに移動し三輪眞弘教授と直接対話をする構成となった。

07/22,23 iamas open\_house: 2021タイムベースメディア・プロジェクト（ライブ配信）

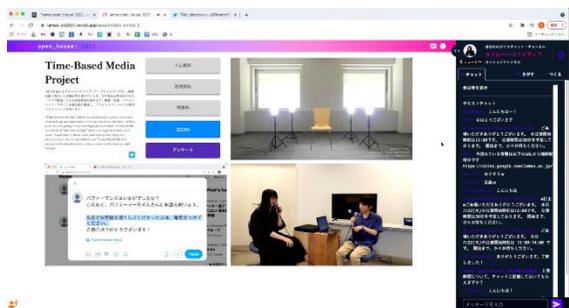
11/19第52回サントリー音楽賞と第20回佐治敬三賞の贈賞式

（三輪眞弘、サントリー音楽賞、佐治敬三賞をダブル受賞。これまでの業績と『きふ未来音楽展 2020 三輪眞弘祭 一清められた夜一』（2020年9月19日、主催：サラマンカホール）が評価され、両賞同時受賞）

12/21 - 2022/03/06 IAMAS ARTIST FILE #07「ビデオノからだと情報」

企画：岐阜県美術館（西山恒彦）、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]（前田真二郎）

協力：IAMAS Time-Based Media Project（アーティストの制作サポート、自動映像展示制御システム制作、デザイン作業他）



## Archival Archotyping

Archival Archotypingとは、作家が作品を制作する段階から、新たな創造のために創造的行為を機械学習のモデルとして記録、保存することにより、アーカイブ（創造のための編纂手法）とアーキタイプ（原型）を同時に実現する基盤を構築しようという考え方です。習作を題材として実際に基盤の構築を試みることを通じて、21世紀における人、機械、自然の関係を扱える新たなメディアを探求します。

研究代表者：小林茂教授、研究分担者：クワクボリョウタ教授、松井茂准教授  
2019年度～

### － メディア表現学会（仮称）：オンラインにおける表現とプラットフォームを「共集性」から考える

物理空間における演劇では当たり前だった、個々の人々が同じ場所に集まって一緒に観る「共集性」に着目し、オンライン空間が物理空間に加わった世界におけるメディア表現のあり方について、学内外の有識者10名で議論した。

2021年7月22日（木）  
オンライン

### － 〈NFTアート〉の可能性と課題

2021年の急激な成長により注目と批判を集めた〈NFT〉アートについて、日本発で最大規模のプロジェクト《Generativemasks》を主宰する高尾俊介氏、情報空間と物理空間の両方にまたがるプロジェクト《WAN NYAN WARS》を主宰する加藤明洋氏から話題提供していただき、〈NFTアート〉の可能性と課題について議論した。220名以上が参加し、終了後もオンラインコミュニティで議論を継続中。

2021年11月19日（金）  
オンライン

### － 《i.frame》

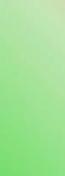
2021年3月31日に開催した分散型オンラインイベント「メタ・モ（ニュー）メント2021」のために開発し、同年7月22・23日に開催したIAMASのオンラインイベント「iamas open\_house: 2021」で発表させた、情報空間におけるイベントのプラットフォームをオープンソースで公開。ウェブ技術「i.frame」を用いることにより、インターネット上で展開している様々な展示やセッションを一箇所に集めることなく、イベント期間中に限定して繋がりや纏まりを提供することができ、音声とテキストの2つのメディアを使ったチャットによりあたかも同じ場に集まっているかのように感じられるのが特徴。

2021年12月25日（土）※公開日  
オンライン

## 〈NFTアート〉の 可能性と 課題

2021年  
11月19日(Fri.)  
19:00-22:00

主 小林 茂  
(情報科学芸術大学院大学 [IAMAS])



## 福祉の技術プロジェクト

身の回りに潜む身近な課題等を技術を使って解決し、人々の生活を豊かにする活動を行っています。ここでの福祉は、障害者福祉、高齢者福祉などに限定することなく、幅広いテーマを扱います。2021年は防災をテーマに活動を行ってきました。毎年発生する災害から、我々自身のように備えるか、学校での備え（教育）はどうか、などを行ってきました。

なお、昨年度から新型コロナウイルス感染症対策でオンライン形式で開催してきました。2021年はオンラインでのメリットを活かしながら、必要に応じて対面でのフィールドワークを取り入れるスタイルで活動しています。

研究代表者：山田晃嗣准教授、研究分担者：小林孝浩教授  
2014年度～

### － 防災から考えよう（IAMASオープンハウス2021）

「防災」をテーマに、メンバーが日頃から行っている内容、やってみたい内容を実践し、その模様を中継しました。災害時にも普段の生活にも有用と思われる取組みを紹介したり、災害時に取り組むべき内容を実践したり、それらの活動を通して「実践内容」や「備え」について話をしました。

2021年7月23日(金)  
場所 オンライン



実践内容を4名が各自中継

### － 玩具の家とVRを使った水害疑似体験の授業実践（大垣特別支援学校）

玩具の家「シルバニアファミリー」の上から児童生徒らにジョウロで水をかけてもらい、水害体験を実際に見てもらいました。また、あらかじめ玩具の家が水没する状況を360度カメラで撮影し、その内容をVRコンテンツとして児童生徒らに体験してもらい、防災教育として役立てる提案を行いました。遊びの要素を含みつつ、VRコンテンツを融合させた防災教育の提案です。実践は現場の先生方が行います。

2021年9月2日(木)ほか  
場所 大垣特別支援学校  
参加場所 オンライン



水害体験の事前打ち合わせをオンラインで実施した。中央上が、実際に使用するシルバニアファミリー

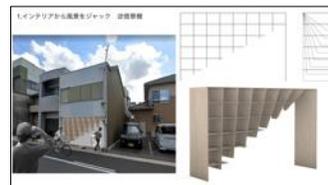
## Action Design Research Project

アクション・リサーチの経験的手法を取り入れたデザイン研究手法「アクション・デザイン・リサーチ」の確立を目指します。フィールドワークを中心に据え、ケーススタディとして、中小企業におけるデジタル・ファブリケーションの活用事例の調査を行う。その上で、それぞれの企業がもつ技術力を背景とした、ソーシャル・ファブリケーションとしてのものづくり・発信手法について検討し、様々な人々を巻き込んだデザイン実践を試みます。

期間：2019年度～  
研究代表者：赤羽亨教授、研究分担者：伊村靖子准教授

### ポストコロナ時代のワークスペースの検討

ポストコロナ時代のワークスペースについてのアイデアシートを作成して、アイデア開発と検討し、そこで得られたアイデアから、更にテーマを絞り込んだ上で藤工芸株式会社（以下藤工芸）と協働しながら試作を行いました。その後パーソナルワークスペースから公共でのワークスペースへとフォーカスを移し、公共空間の什器デザインへと発展させていきました。



アイデアスケッチの例



試作什器

### 《協働的デザイン環境のプロトタイプング》 (2021年2月4日～26日 ソフトピアジャパンセンタービル1F)

公共空間に新たな動線や機能を付加する試みとして、ソフトピアジャパンセンタービル1階を対象に、3期に分けて空間デザインを行いました。実際に使われる様子の観察に基づき、随時レイアウトを改変し、第1期（2月4～13日）にはIAMAS案、第2期（2月14～19日）は藤工芸の改変案を、IAMAS2021を含む第3期（2月20～26日）には再度IAMASが新たなレイアウト案を実際に設置しました。



第1期



第2期



第3期

## ライフエスノグラフィ

### 研究概要

わが国では多様な意味内容を有するライフ（生命／生活／生）の諸相を、小林（生の哲学・人類学・研究）、金山（地域・コミュニケーション・調査）、カストロ（バイオ・倫理・表現）それぞれの枠組みから精査して、メディア表現研究における現状を明らかにしつつ、その可能性を討究します。本学では岐阜おおがきピエンナーレにおいて、ライフを主題的に扱ったものを二度開催しております（2013年の「LIFE to LIFE～生活から生命へ／生命から生活へ」及び2015年の「日々の裂け目～CRACKS OF DAILY LIFE」）が、そこではライフ（生命／生活／生）を鍵語に、美術、パフォーマンス、思想、アーカイブ、ファッション、建築などさまざまな領域を横断する世界が創造的かつ想像的にとりあげられていました。しかし、地域における生活のありかた、バイオアートにおける倫理的接近、生の哲学の表現への応用といった今日的側面を十全に展開させることは簡単ではありませんでした。と同時に、「環境と生命」をめぐるより大きな問題群はきわめて21世紀的なテーマであり、ピエンナーレで集結＝終結させるものではなく、継続的に考究すべきテーマであることは自明であります。そこで、本プロジェクトでは、いままでIAMASがライフについて取り組んできたさまざまな活動を参照しつつ、来たるべきピエンナーレも眺望しつつ、人間的な営為のみならずそうした営為の行使が期待される「人間そのもの」へもアプローチすべく、それぞれの教員の専門性に依拠した研究、発表、制作などをおこない、生命論の豊かな地平を構築することをめざします。

### 研究計画

教員の専門性を充填すべく、またより客観的な思考を身につけるために、定期的に輪読会や研究会、シンポジウムを開催し、外部の研究者やアーティストとの交流をはかると同時に、本プロジェクトの研究成果をそうした研究会やシンポジウムにフィードバックしたり、展覧会や出張講演などもおこなうようにします。初年度である今年「ライフ」に関する研究や作品の現状を精査・考察する期間であり、それらの成果は冊子ないしウェブのかたちで公開するよういたします。

研究代表者：小林昌廣教授、研究分担者：金山智子教授、カストロ・ホアン准教授  
2021年度～



岐阜おおがきピエンナーレ2021「LIF--E」

## 外部資金研究

- 公費や財団助成による研究、受託や委託研究と多くの研究が実施されています。
- 一般財団（小川科学技術財団など）の助成を受けている教員も3割程度あります。
- 他機関の研究に研究分担者として参加する教員も増えています。

### 外部資金研究

科学研究費 / 日本学術振興会 Grant-in-Aid for Scientific Research

- 基盤研究 C ◎金山智子教授  
H29-R1 コミュニティラジオがつくる震災の記録と記憶の可能性に関する研究
- 基盤研究 C ◎松井茂准教授、伊村靖子講師  
H29-R1 マス・メディア空間における芸術表現と情報流通の研究
- 基盤研究 C ◎カストロ・ホアン・マヌエル准教授  
H30-R2 Investigation on wetware art in the post-digital age
- 基盤研究 A 三輪真弘教授  
H30-R4 1970年代以降の人文学ならびに芸術における語りの形式についての領域横断的研究
- 基盤研究 B 鈴木宣也教授  
H30-R2 ヴィジュアルリテラシー普及に向けた基準策定とツールの開発
- 基盤研究 C 赤羽准教授  
R1-R3 時間軸を持つ3Dデータ及び映像・音響データを用いたアーカイブシステムの開発

◎ = 研究代表者

### 公益財団法人小川科学技術財団研究助成金

- H30-R1 エンターテインメントとしての共鳴現象を引き起こすAIの開発（金山智子教授）  
R1-R2 重要民俗無形文化財の継承支援のための四次元データアーカイブ（小林孝浩教授）  
R1-R2 デジタルアプリケーションを前提としたデザインシステムの開発（赤羽亨教授）

### 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化センター

- 重点共同研究 ◎松井茂准教授、前田真二郎教授、伊村靖子講師  
R1 マス・メディアの中の芸術家像

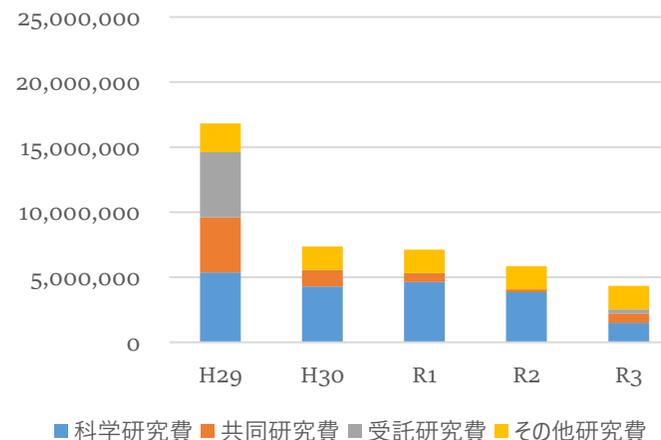
### 京都大学人文科学研究所

- 共同研究拠点 ◎三輪真弘学長、松井茂准教授  
R1 「システム内存在としての世界」についてのアートを媒介とする文理融合的研究

### COI拠点「感性とデジタル製造を直結し、生活者の創造性を拡張するファブ地球社会創造拠点」（国立研究開発法人科学技術振興機構）

- H25-R3 小林茂教授

### 外部資金調達額 ※R3年度は10月末まで



## 受賞

IAMASの学生・教員は、毎年、各種の分野で賞を受賞しています。修了生の活躍については、近年ますます注目されています。

## — 2020

企画・監督・総合監督・プロデューサー：若見ありさ（2000年修了）  
音楽：松本祐一（2003年修了）  
『Birth-めぐりのち』  
福井映画祭2020 アニメーション部門 グランプリ  
あいち国際女性映画祭2020 観客賞（オムニバスの一編）  
第2回石垣島・湘南国際ドキュメンタリー映画祭 グランプリ（オムニバスの一編）  
毎日映画コンクール アニメーション映画賞・大藤信郎賞 ノミネート

アニメーション：若見ありさ（2000年修了）  
音楽：松本祐一（2003年修了）  
『アリズン・サークル』監督：坂上香  
令和2年度文化庁映画賞 文化記録映画大賞

若見ありさ（2000年修了）  
映文連アワード2020 優秀クリエイター賞

武部瑠人（修士2年）  
『Se[real] Lighting Killer』  
2020 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー エンターテインメント（産業応用）部門 入賞

テクニカルディレクション：天野真（修士1年）  
『UNLABELED – Camouflage against the machines』  
2020 60th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS クリエイティブイノベーション部門 ACCゴールド  
INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2020「デジタルコンテンツ部門 優秀作

守下誠（修士2年）  
「ARカメラアプリ《ARama!》:身の回りの人や物を素材にして自由に遊ぶ。」  
異能vation 破壊的な挑戦部門 ゼロワンチャレンジ 採択

テクニカルディレクター・ハードウェアエンジニア：鈴木健太（修士2年）  
「劇団ノーマーツ」  
2020 60th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS クリエイティブイノベーション部門 ACCゴールド

プロデューサー・ディレクター：川崎鋼平（2004年修了）  
地球料理 -Earth Cuisine-「Bamboo Galette」  
2020年度グッドデザイン賞

プロデューサー 一般社団法人メディア・アンド・クラフツ 中原淳（2006年修了）、山口歩那（2015年修了）  
デザイナー カッコイー合同会社 中村親也（2015年修了）  
シェアオフィス [GIDS]  
2020年度グッドデザイン賞

坂本茉莉子（2008年修了）  
「風のうたよみ」  
六甲ミーツ・アート芸術散歩2020  
制作: MATHRAX（久世祥三 + 坂本茉莉子）

tsuchifumazu（綿貫岳海（2018年修了）・佐藤海里）  
映像作家100人2020

CHO YONG HYUN（修士1年）  
「Growling for snare drum and live electronics」  
New York City Electroacoustic Music Festival 2020

## — 2019

安野太郎 (2004年修了)  
第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示 (2019年)

平瀬ミキ (2019年修了)  
「Translucent Objects」  
清流の国ぎふ芸術祭「第2回ぎふ美術展」自由表現部門 優秀賞  
AFAF AWARDS 2019 入選  
CAF賞2019 海外渡航費授与者選出

日々《変容の対象》アンサンブル/IAMAS タイムベースドメディア・プロジェクト  
ピアノ：山内敦子、サクソフォン：木村佳 (修士2年)、映像送出：森田了 (修士2年)  
『日々《変容の対象》8月』  
サウンドパフォーマンス・プラットフォーム2020 公募アーティスト選出

川又龍人 (修士1年)、厚木麻耶 (修士1年)  
「Wi-Fiおじさん」  
第一回恵那峡映画祭 フリースタイル部門賞

篠田幸雄 (2017年修了)  
「Glowing Air-Bubble Clock」  
Make It Glow Contest Grand Prize

Signal compose  
(大和比呂志 (2018年修了)、大石桂誉 (2015年修了)、津曲光太 (修士2年)、森田了 (修士2年))  
「visible / hidden / re-visible」  
YouFab Global Creative Awards 2019 ファイナリスト選出

サウンドパフォーマンス・プラットフォーム2019 公募アーティスト選出

高嶺格 (1999年修了)  
「NIMBY (Not In My Back Yard)」  
YouFab Global Creative Awards 2019 ファイナリスト選出

大久保雅基 (2016年修了)  
「動的楽譜システム」  
WIRED CREATIVE HACK AWARD 2019 SONY特別賞

守下誠 (修士1年)  
「ARama! -スマホで撮れる、ふしぎな動画-」  
2019 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー エンターテインメント (産業応用) 部門 大賞  
いばらきデジタルコンテンツ・ソフトウェア大賞2019 アプリ・ソフトウェア・IoT部門 最優秀賞  
第25回学生CGコンテスト エンターテインメント部門 ノミネート

飯島祥 (2019年修了)  
「LiveLoop Interpreter」  
2019 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー エンターテインメント (産業応用) 部門 優秀賞

桑畑幸千生 (修士1年)  
「actionCanvas」  
2019 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー インタラクティブアート部門 優秀賞  
第25回学生CGコンテスト エンターテインメント部門 ノミネート

伏田昌弘 (修士2年)  
「Avatar Jockey」  
2019 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー インタラクティブアート部門 優秀賞

柴田一秀 (修士2年)  
「象眼撮影」  
2019 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー インタラクティブアート部門 入賞

柴田一秀 (修士2年)、白石覚也 (修士2年)  
「GIF JOCKEY SET」  
2019 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー エンターテインメント (産業応用) 部門 入賞

void (岡本 空己 (2013年修了)、齋藤 健司) : 映像制作  
後藤 天 (2013年修了) : 作曲  
「MetaRefraction」  
2019 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー 動画部門 入賞  
MADD. Award 2019 Works 優秀賞

中路景暁 (2019年修了)  
「Sequences/Consequences」  
第25回学生CGコンテスト アート部門 市原評価員賞

日比野光紘 (修士2年)  
「/module/Whom」  
第25回学生CGコンテスト アート部門 ノミネート

佐藤優太郎 (修士2年)  
「蟹の錯覚」  
第25回学生CGコンテスト エンターテインメント部門 ノミネート

柴田一秀 (修士2年)  
「The Style of One's Photograph」  
第25回学生CGコンテスト エンターテインメント部門 ノミネート

菅野創 (2009年修了) + 塚田有那  
「Lasermice bicolor + conference」(仮)  
令和元年度 国内クリエイター創作支援プログラム 採択

古舘健 (2002年修了)  
「Quasicrystal - ジェネラティブな手法を用いた準結晶的な織物表現の探求」(仮)  
令和元年度 国内クリエイター創作支援プログラム 採択

大久保雅基 (2016年修了)  
「動的楽譜システム」  
CREATIVE HACK AWARD 2019 ファイナリスト選出

竹村望 (2019年修了)  
「同じ月を見つめて」  
イメージフォーラム・フェスティバル2019「東アジア・エキスペリメンタル・コンペティション」ノミネート選出

Scott Allen (2016年修了)  
「¥Z¥oom」  
デジタル・ショック省2019

企画・クリエイティブディレクション：川崎綱平 (2004年修了)  
アートディレクション：三宅太門 (2010年修了)  
地球料理-Earth Cuisine - 「Eatree Plates」  
The 21th FAB Awards Experiential Marketing Silver

## — 2019

The SINE WAVE ORCHESTRA (メンバーに古館健 (2002年修了))

「The SINE WAVE ORCHESTRA stay」

PRIX ARS ELECTORONICA 2019 Digital Musics & Sound Art 部門 Honorary Mentions

正直 (小林椋・時里充 (2010年修了))

「"Play Back" Curing tapes」

PRIX ARS ELECTORONICA 2019 Digital Musics & Sound Art 部門 Honorary Mentions

堂園翔矢 (プログラマー 2014年修了)、石塚千晃 (ディレクター 2015年修了)

「YouFab Global Creative Award 2018」ポスターデザイン

The One Show 2019 Typography / Static SILVER

The One Show 2019 Promotional / Posters-Series BRONZE

おしまたくろう (2017年修了)

「道楽シリーズ # 1 滑琴 (かっきん) / DOURAKU Series # 1

“Kuck'in”」

2019年度 創造活動助成 for U30 採択

柴田英徳 (修士2年)

「ささえてハウス」

アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム2019・汗かくメディア賞

ココ (野呂祐人 (2019年修了)・工藤恵美 (修士2年))

「モトク・シリーズ」

アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム2019・汗かくメディア賞

## 岐阜イノベーション工房2020

### － シンポジウム 都市の“辺境（フロンティア）”

「イノベーション工房」は、イノベーション創出に挑戦するための風土を岐阜県内に醸成することを目的として、IAMASが2018年から主催する事業です。

2020年は、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行を受け、生活環境が大きく変化した年となりました。急速に浸透したオンライン化により、自宅に居ながらにして瞬時に遠く離れた人々と接続できるようになり、情報空間における距離が大きく縮まったとて、新たな事業にとって絶好の機会がもたらされています。第1部では、イノベーション創出への取り組みの必要性和、最小限のリスクとコストで取り組むための方法論について基調講演で紹介しました。次に、都市の辺境を開拓しようとしている方々から、それぞれの取り組みに加えて、その背後にある視点や考え、課題についてお話いただき、議論を通じて理解を深めました。最後に、岐阜イノベーション工房のプログラムについてご案内しました。

第1部：基調講演（小林茂教授）

第2部：話題提供と議論

第3部：「岐阜イノベーション工房の紹介」

「話題提供と議論登壇者」

豊田啓介氏（建築家／noizパートナー／gluonパートナー）

小林茂教授

2020年5月27日(水) 13:30 - 16:30

会場 オンライン (YouTube Live)

小林茂教授



### － 岐阜イノベーション工房2020（ワークショップ）

岐阜イノベーション工房は、IoT・AI・デジタル設計／製造など、急速に浸透しつつある技術の世界的な変化およびその本質を学び、自ら製品・サービスのアイデアを創出し、実際に体験できるプロトタイプをつくることまでを体験することにより、イノベーション創出に取り組める人材を育成するプログラムです。

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] がこれまでに確立してきた、デザイン思考とシステム思考に関する知見の中で、製品・サービスの開発に応用できる部分を短期集中の演習プログラムで学び、その後の実習プログラムで深めます。

（参加企業）3チーム 8人

（株）林本店 : 2名

太平洋工業(株) : 3名

（株）羽島企画 : 3名

2020年7月 - 2021年3月

会場 オンライン (zoom)

小林茂教授

### － イノベーション工房2020 成果・進捗報告会

2020年の事業全体を振り返るとともに、参加企業が実習プログラムにおいて取り組んできた成果について報告しました。報告会には、参加企業関係者以外にも、イノベーションや新規事業創出に関する手法に興味のある方等にも参加いただき実施しました。

全プログラム終了後に参加企業に対して実施したアンケートでは、「社内からはでてこない、新たな気づきがあったよかった。」等の意見をいただきました。

なお、成果・進捗報告会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインにて実施しました。

2021年3月25日(木)13:30 - 15:30

ZOOMウェビナー

小林茂教授



## 岐阜クリエイション工房2021

本学では、2019年度から、人文知と工学知の界面であるメディア表現に取り組む「アーティスト」たちと高校生などの若者たちが、ともに試行錯誤しながら作品をつくることを通じて、発想力や想像力を学ぶワークショップ「岐阜クリエイション工房」を実施しています。新型コロナウイルス対策により、2020年度よりオンラインにて開催しています。

2021年度は、3つのワークショップを開催しました。

総合ディレクター//小林茂教授 (IAMAS)

### －ワークショップ1 食のパーソナライゼーションから考える新しいコミュニケーション

内容：自分で食品を作り、共に食すること、また第三者にシェアしたときに発生したコミュニケーションまでを撮影し、自身と他者との感覚の差異や気持ちについて、ディスカッションを通して、「おいしい」について考察を深めます。

学べること：オンラインでの共食から「共食とは何か」を学ぶ

講師：木村亮介氏 (株)GOCCO 代表取締役

平塚弥生氏 (株)Coneru 代表、フードコンサルタント

日程：2021年8月 - 9月 (全6回)

参加人数：高校生4人

### －ワークショップ2 未来の“まつり”を想像する－影絵と音楽で紡ぎ出すオンラインアソシエーション (共同体)－

内容：昔から人々は祭りを通して技術を継承したり、世代を超えたコミュニティを築いてきました。オンライン上のコミュニケーションが増え、祭りも消えゆく昨今、私たちはどうやってアソシエーション (つながり・共同体) を築いていくのか？ 未来にあり得るかもしれないオンライン上の祭りを、影絵と音楽を通して想像、創作しながら考えていきます。

学べること：芸能、祭りなど過去から継承されてきたものから、時代を超えて受け継いでいくという視点を知り、アートが社会に担う役割を考える。

講師：宮内康乃氏 作曲家、「つむぎね」主宰

川村亘平齋氏 影絵師、音楽家

日程：2021年8月 - 9月 (全7回)

参加人数：高校生1人、大学生1人

### －ワークショップ3 AIのまなざしと作るPhotobook -AIを通じて世界を再発見しよう-

内容：現代社会では、顔認証などのAIを用いたシステムが発達し、私たちの生活は便利になりました。本ワークショップでは、顔認証を使い「顔のように見える植物」を探すなど、AIの本来の使い方ではない「誤用」を通して、一味違ったPhotobookづくりに挑戦し、AIと私たちの関係について考えます。

学べること：AIの仕組みについて知り、「誤用」を通じて、新しい価値を生み出す方法を考える。

講師：青木聖也氏 Artist, Visual & AI researcher

中嶋亮介氏 Programmer at Qosmo, inc

日程：2021年8月 - 9月 (全6回)

参加者：高校生8人



# IAMAS イベント

- 毎年、修了研究発表会・プロジェクト研究発表会を開催し、成果の発表を行っています。
- 隔年で岐阜おおがきビエンナーレおよびOgaki Mini Maker Faireを開催し、新しいアートやものづくりに関する発信を行っています。

## IAMAS2021 第19期生修了研究発表会・プロジェクト研究発表会[修了展] Graduation and Project Research Exhibition

IAMAS2021は、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延によって社会全体が大きく変化した状況において、学生ひとりひとりが「この不確かな社会の中で、ものを作るとは何か、表現するとは何か」を考え、模索し、挑戦した末で導き出したそれぞれの答えとして、展示・発表を行いました。そうした「模索と挑戦の結果」であったIAMAS 2021は会場での修士研究を始めプロジェクト研究の展示・発表に加えて、Webサイト上にもそれらの研究の「過程や魅力」を広くお伝えするための豊富なオンラインコンテンツも展開がされました。

2021年2月20日(土) - 23日(火・祝) 10:00 - 18:00  
ソフピアジャパン・センタービル (3F ソピアホール) ほか

### - Program

#### 2021.2.19(金)

19:00- コロナ禍でつくるといふこと—アーティストの視点・教育者の視点—

19:00- 亡霊の場所から

#### 2021.2.20(土)

18:00- NxPC. Live vol.47

19:00- SYSTEM: kilroy—紹介ビデオ

#### 2021.2.21(日)

8:00- 新型グループ・ライド 2021 Winter

12:00- 密着! IAMAS24時

14:00- 《Electric Counterpoint》パフォーマンス

#### 2021.2.22(月)

16:00- Edwin van der Heide × Masahiro Miwa スペシャルトーク

#### 2021.2.23(火)

14:00- 《Electric Counterpoint》パフォーマンス

16:00- マルガサリ特別公演『人形たちのための五芒星』

### - Online Contents

#### 2021.1.22(金)-

19:00- #01\_01 2つの回転ディスプレイ [前編] プロトタイピング編

#### 2021.1.29(金)-

19:00- #01\_02 2つの回転ディスプレイ [後編] プロトタイピング編

#### 2021.2.12(金)-

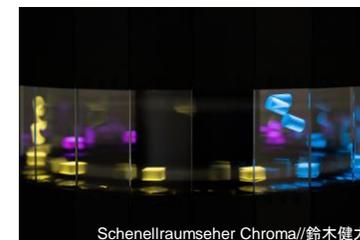
19:00- #02\_01 コロナ禍 [前編] ワークショップとは何か

#### 2021.2.19(金)-

19:00- #02\_02 コロナ禍 [前編] オンラインワークショップとワークショップの未来



Dis/connection//藤本遼太郎



Schenellraumseher Chroma//鈴木健大



創造的解釈//木村佳



修士研究を深掘り! トークセツ



体験拡張表現 プロジェ



Action Design Research Project

## 岐阜おおがきビエンナーレ2021 国際シンポジウム 『LIF---E!?!』 (オンライン開催)

今回は、国際シンポジウム「LIF---E!?!」 部分的に生きているもの、エクストリーム・バイオロジー、エイリアン生命」と題し、多様なゲストを迎えて、オンライン形式で実施しました。

本シンポジウムでは、アート、哲学、化学、生物学、宇宙生物学からのアプローチを集結し、「生命らしさ」に対するモダニズム/ポストモダニズム思考を超えることを目指しました。

海外からの登壇者も多く、逐次・同時通訳の対応を行い、日本及び海外から、広く参加者を募りました。

2021年12月17日(金) - 12月19日(日)

オンライン開催

ディレクター//ホアン・カストロ 准教授 (IAMAS)

### - 12月17日 (金) 17:50~19:00

特別講演「マイクロパフォーマティビティについて」 Jens Hauser (コペンハーゲン大学)

Q&A

### - 12月18日 (土) 15:00~18:45

セッション1：部分的に生きているもの

「ウイルスから考える生命らしさ」 中屋敷均 (神戸大学)

「医の知の対話」 小林昌廣 (IAMAS 教授)

「微小なウェットウェアを目指して」 豊田太郎 (東京大学)

セッション2：エクストリーム・バイオロジー

「人間と非人間のためのエコゾフィーと平和」 四方幸子 (キュレーター)

「TBA」 長谷川愛 (アーティスト)

### - 12月19日 (日) 15:50~19:40

セッション3：エイリアン生命

「TBA」 山岸明彦 (東京薬科大学)

「地球外マテリアル・エージェンシー」 ホアン・カストロ (IAMAS 准教授)

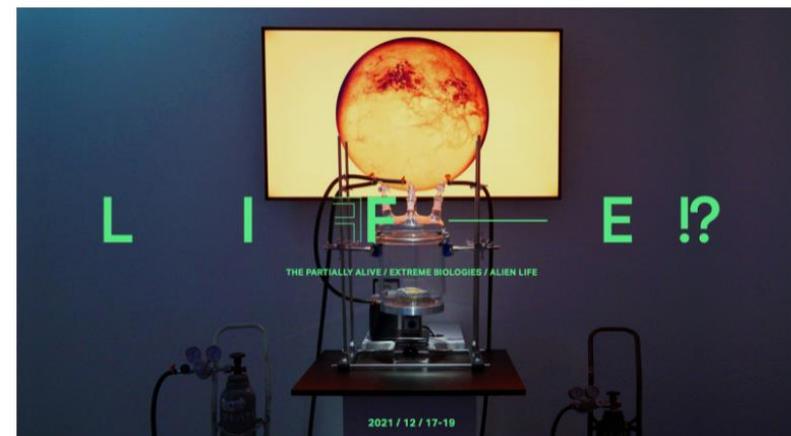
「TBA」 Andy Gracie (アーティスト)

「エイリアン知能とマテリアル・(ノン) フィクション」 久保田晃弘 (多摩美術大学)

ディスカッション

Jens Hauser、Andy Gracie、山岸明彦、久保田晃弘、四方幸子、小林昌廣、

ホアン・カストロ



## Ogaki Mini Maker Faire 2020

Maker Faireは、「Maker」（メイカー）と呼ばれる、ものづくりの愛好家たちが全国から集い、電子工作やロボット、クラフト、電子楽器、サイエンス工作などに関する展示や発表を行い、相互に交流することで、ものづくりの楽しさを共有するイベントです。

6回目の開催となった今回は、新型コロナウイルス感染症が流行する中での開催となりましたが、会場とオンラインを組み合わせ、多様なMakerによる作品展示のほか、オンラインでのライブ、プレゼンテーションなどを実施し、これまで以上に充実した内容となりました。

開催日：2020年12月5日(土) - 12月6日(日)

開催場所：ソフトピアジャパン・センタービル

主催：Ogaki Mini Maker Faire 2020 実行委員会、共催：(株)オライリー・ジャパン

総合ディレクター//小林茂教授

野呂祐人研究員、佐々木紘子研究員、伊藤晶子情報支援専門職、伊澤宥依技術支援専門職

出展者 物理会場 33組 (東北1組、関東9組、中部19組 (うち岐阜県7組)、関西4組)

オンライン会場 10組

プレゼンテーション 14組

対話型プレゼンテーション 2組

パフォーマンス 1組

来場者数 延べ650人

(新型コロナウイルス感染症対策のため、事前予約制とし、入場者数を制限して実施)

### 【関連企画】

#### ー 岐阜クリエーション工房2020 作品展示・講評会

会場内において、作品展示を行うとともに、オンラインにてワークショップ講師による講評会及びトークイベントを開催しました。

#### - 作品展示

2020年12月5日(土)-12月6日(日)

物理会場内 (ソフトピアジャパン・センタービル内)

#### - 講評会・トークイベント

2020年12月5日(土)14:00-15:30

オンライン会場 (YouTubeで配信)



## 三輪眞弘 (IAMAS 教授)

## 第52回サントリー音楽賞、第20回佐治敬三賞をW受賞

公益財団法人サントリー芸術財団より、日本の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた個人または団体に贈るサントリー音楽賞の第52回（2020年度）サントリー音楽賞を三輪眞弘教授が受賞した。

また、同財団より、第20回（2020年度）佐治敬三賞を、「ぎふ未来音楽展2020 三輪眞弘－清められた夜－」（主催：サラマンカホール）も受賞した。本公演は、サラマンカホール（岐阜市）において無観客で開催された公演で、ライブ配信というスタイルで、ダンスやガムランなどのコラボレーションにより、コロナ禍という状況と真正面から向き合い、世界的に見てもまれなレベルの発信が高い評価を受けた。

佐治敬三賞は、わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画かつ公演成果の水準の高い優れた公園に贈る賞である。

三輪教授は、サントリー音楽賞と佐治敬三賞のW受賞となり、また、佐治敬三賞は2度目の受賞となった。

2020年9月19日(土) 23:00開演

OKBふれあい会館・サラマンカホール（岐阜県岐阜市）

ぎふ未来音楽祭2020 三輪眞弘祭－清められた夜－

主催 サラマンカホール

サラマンカホールよりライブ配信（無観客開催）

作曲・企画・構成：三輪眞弘（IAMAS 教授）

映像監督：前田真二郎（IAMAS 教授）

フォルマント音声合成：左近田展康

詩：松井茂（IAMAS 准教授）

2021年11月19日(金)

サントリーホール（東京都）

第52回サントリー音楽賞、第20回佐治敬三賞 贈賞式



© サントリー芸術財団

# 運 営

- IAMASの運営に関する予算は以下のとおりとなっており、歳入の約8割は岐阜県予算から措置されています。

(千円)

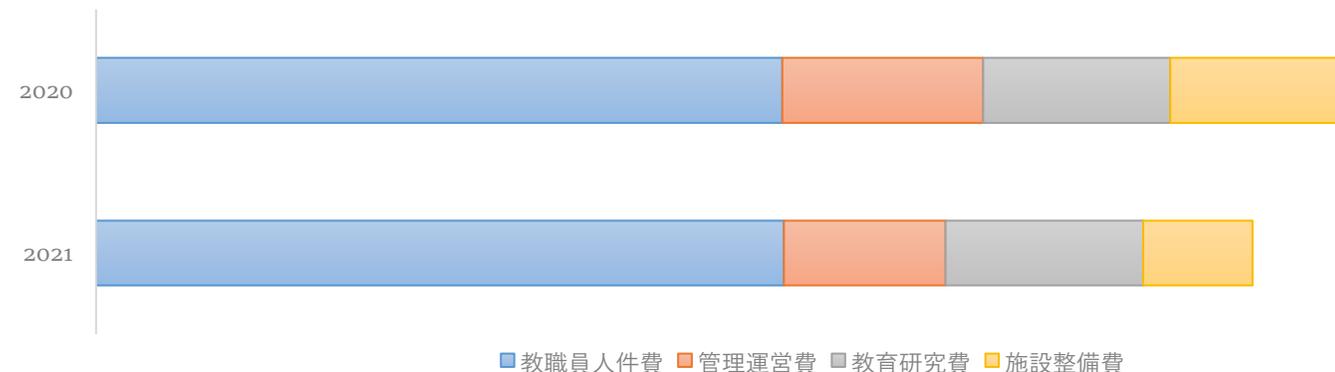
－ 歳入の部

	2021	2020
県費〔一般財源〕	445,603	484,042
地方交付税	28,897	26,881
入学金・授業料	32,248	33,178
その他手数料等	15,286	11,465
国庫補助金等	10,000	10,000
共同・受託研究等	14,800	14,800
科研費等	5,600	5,600
その他収入	167	471
県債〔一般単独事業費〕	0	11,600
合計	552,601	598,037



－ 歳出の部

	2021	2020
教職員人件費	328,627	327,877
管理運営費	77,191	96,019
教育研究費	94,529	89,426
施設整備費	52,254	84,715
合計	552,601	598,037



[主な使途]

管理運営費：校舎維持、非常勤講師、広報、入学試験  
 教育研究費：PJ研究、教員研究、特別給付生  
 施設整備費：校内システム設備整備、図書館運営

(単位:千円)

一 授業料、入学料その他の費用

- 入学前に必要な費用

入学金  
 県内の者:226,000円  
 県外の者:338,000円

- 在学時に必要な費用

授業料  
 年額 535,800円  
 前期 04月30日までに納付  
 後期 10月31日までに納付

- 入寮者のみ

寮費 22,800円/月  
 共益費 35,000円/年 (前納)

- 授業料減免に関する情報

学業に精励し、人物健全な者で、次の各号のいずれかに該当する場合、授業料の減免または 納入期限の延長が認められる場合があります。

1. 生活保護法第6条第1項に規定する被保護者の世帯に属する者
2. 長期疾病、生業の不振又は失業のため、その生計が著しく不良となり、前号の被保護者に準ずる程度に困窮していると認められる世帯に属する者
3. 天災その他の災害により著しく損害を受け、学資の支弁が困難な世帯に属する者
4. 知事が別に定める基準により情報科学芸術大学院大学特別給費生として認めた者
5. その他知事が特に減免等の必要があると認めた者

一 情報科学芸術大学院大学に対する大学評価（認証評価）結果

情報科学芸術大学院大学は、公益財団法人大学基準協会による2014年度大学評価（認証評価）の結果、同協会の定める大学基準に適合していると認定されました。

認定期間:2015年4月1日 - 2022年3月31日

一 中期目標及び中期計画

情報科学芸術大学院大学中期目標及び中期計画を策定し、IAMAS WEBに掲載しています。(独立行政法人化されていない大学の策定は任意)

計画期間:2018年4月1日 - 2024年3月31日

一 運営事業費(当初予算額)の推移(人件費を除く)



※2019年度は、管理運営費に学生寮外壁等修繕工事費を含む



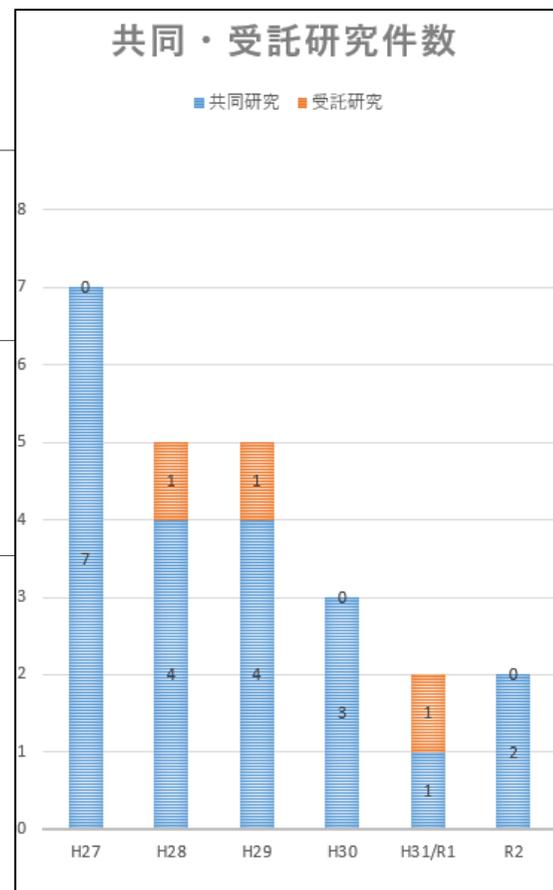
## 共同研究 受託研究

- ※ 共同研究 : 必ずしも研究資金の授受を問わず、人材交流や技術・施設の共用による研究であり、契約を締結したもの
- ※ 受託研究 : 官公庁、自治体や民間企業などから受託して行う研究

### - 共同・受託研究

2020年度 (令和2年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 東京コンピュータサービス㈱《平林真実教授》 テーマ:MRを用いた表現システムの開発とその展開の可能性の研究</li> <li>- Acoustics Spectra Communication 《小林孝浩教授》 テーマ:意識レベル指標としての心拍測定技術の研究</li> </ul>
2019年度 (平成31年度/ 令和元年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- ローランド㈱ <b>【受託研究】</b>《小林茂教授》 テーマ:携帯用APP開発における、下記の2工程におけるユーザー心理とその研究                     <ol style="list-style-type: none"> <li>① ターゲットユーザー層へのインタビューを通じた思考調査と情報分析</li> <li>② プロトタイプ等を用いたユーザーリサーチの実施とその有効性の検証</li> </ol> </li> <li>- 大広《鈴木宣也教授、金山智子教授》 テーマ:広告クリエイターによるものづくりプロトタイピング</li> </ul>
2018年度 (平成30年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 大広《鈴木宣也教授、金山智子教授》 テーマ:広告クリエイターによるものづくりアイデアエーション</li> <li>- 長良川鉄道《平林真実教授、金山智子教授》 テーマ:長良川チャギントン人形列車</li> <li>- 稲葉商店《金山智子教授、瀬川晃准教授、山田聡研究員》 テーマ:複合的な文脈から体験する食のデザイン研究</li> </ul>
2017年度 (平成29年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 凸版刷印 <b>【受託研究】</b>《松井准教授、伊村靖子講師》 テーマ:メディア芸術所蔵情報の調査 ※「文化庁メディア芸術所蔵情報等整備事業」のメディアアート分野をIAMASにて実施</li> <li>- 電通《小林茂教授》 テーマ:デジタルテクノロジーを使った地域社会の課題解決</li> <li>- ソニー《鈴木宣也教授、赤羽亨准教授》 衣食住ネットワークプロジェクト</li> <li>- Rock'n Pool、ミホロ《金山智子教授、平林真実教授、古澤龍(元)研究員》 POOL JAM EXPO 2017 におけるPoolの新たな価値を創出するためのLED演出の研究</li> <li>- 十六銀行《小林茂教授》 既存サービスのIT化に関する研究</li> </ul>

### - 共同・受託研究件数



# 出版 広報

- IAMASの研究や各種の活動について認知や関心を高めるための広報活動を行っています。
- 教員による研究や活動を掲載する「紀要」や、プロジェクト成果を纏めた冊子など、IAMASの研究活動の記録も行います。

## 情報科学芸術大学院大学紀要

Journal of Institute of Advanced Media Arts and Sciences

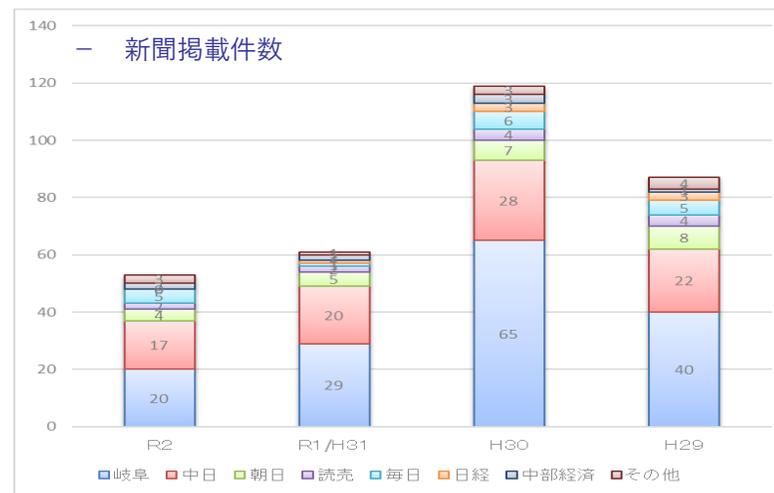
第12巻 2020年

[特集]

- COVID-19以後のメディア表現研究  
COVID-19下でのNxPC.Labの音楽イベントの試み  
新型コロナウイルス感染症が福祉の技術プロジェクトにもたらしたものの資料編：ぎふ未来音楽展2020三輪眞弘祭  
新型コロナウイルスと自転車
- 岐阜イノベーション工房2020  
基調講演：イノベーションの機会として「コロナ禍」を捉える 小林茂  
マルチパース化し、量子化する世界へ 豊田啓介、小林茂

[研究ノート]

- NHK大阪において制作された電子音楽の調査
- ケアメディアとしてのラジオーコロナ禍に求められるケア・コミュニケーション
- オンライン環境での共同制作における学びの実践報告
- サイン・スタディー：コミュニケーションのほころびを手掛かりにした持続可能な運用の試み
- 協働的デザイン環境をめぐる試論



© (株) 岐阜放送

岐阜放送「美の精華」において、三輪眞弘教授が取り上げられました。  
(2021年6月24日放送)

## 雑誌掲載 ※R3.11現在



「美術手帖」  
2021年4月号

美術手帖2021年4月号に卒業生のイトウユウヤ氏の記事が掲載されました。『アーカイブの創造性 過去をどう活かす？未来にどう残す？／作品のふるまいを記録し、未来に託す。タイムベースド・メディアの残し方』



デザイン誌「AXIS」  
2021年6月号

デザイン誌『AXIS(6月号)』で、卒業生の真鍋大度氏・石橋泰氏の記事が掲載されました。『XRが生む新たな体験／事業承継にデザインはどうかかわる？／常識や感覚を揺り動かすMRダンス、ライゾマティクス』



「REAR」  
2021年10月号

『REAR (10月号)』で、小林昌廣教授の記事が掲載されました。『記録と再生の倫理学／世阿弥の倫理学～A | 美空ひばりをめぐって』



「美術手帖」  
2021年12月号

『美術手帖 (12月号)』特集にて、卒業生の高尾俊介氏・真鍋大度氏の記事が掲載されました。

## 学 生 支 援

- IAMASの学生は、多様な専門分野、様々な地域から入学があるため、進路についても多様な要望に対応する形で支援しています。
- 学生の皆さんが、研究や制作活動に打ち込めるよう生活についての支援も行っています。

### - キャリアセミナー

学生が進路を検討するために必要な支援を行っています。

- 第1回キャリアセミナー 2021年4月9日(金) 13:20 - 16:25 \* オンライン開催  
テーマ：OB/OGの紹介  
(赤松正行教授、瀬川晃准教授)
- 第2回キャリアセミナー 2021年5月7日(金) 13:30 - 16:00 \* オンライン開催  
テーマ：「クリエイターのための法知識と会計処理について」  
- 倉崎伸一朗氏  
シティライツ法律事務所 弁護士  
- 山内真理氏  
Yamauchi Accounting Office代表 公認会計士・税理士
- 第3回キャリアセミナー 2021年9月27日(月) 13:20 - 16:25 \* オンライン開催  
在学生が進路を考える際に参考となるよう、身近な本学修了生からの声を聴く機会を提供しています。  
- 塚原真梨佳氏  
立命館大学 社会学研究科応用社会学専攻 博士課程後期在学  
- 佐原浩一郎氏  
大阪大学大学院 人間科学研究科 単位取得退学

### - キャリアカウンセリング

学生一人一人に対し、担当教員が進路について面談を行っています。

### - 国際交流員

海外出身の教員や交換留学生のサポート、IAMAS研究成果の海外発信などのため、自治体国際化協会（クリア）「語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）」を活用し、国際交流員（Coordinator for International Relations [CIR]）を受け入れています。  
学生の研究活動にも大きな支援となります。

### - 交換留学制度

IAMASでは、海外の教育機関との学生交流事業を実施しています。  
このプログラムは、学生に海外で豊かな経験を積んでもらうもので、毎年2名が提携校に1～3か月留学するとともに、提携校の学生がIAMASに滞在し、互いに交流を深めます。  
現在の提携校：リンツ美術工芸大学（オーストリア）  
\* 新型コロナウイルスにより、2020年度、2021年度は休止

### - 学生寮 [RIST]

学生寮 [RIST] は、IAMASから約1.3Kmの住宅街に位置し、ユニットバス、ベッド、電気調理器具など快適さと機能性を備えた生活空間となっています。また、学生が利用しやすい寮費としています。（オール電化のためガス調理器具・暖房は使用できません。）

大垣市藤江町1丁目1-7  
全40室（洋間）



### - 仮眠室

夜間の帰宅困難時はセンタービル2階に、仮眠を取ることができる和室があります。研究活動で疲れた身体を癒します。

### - 保健室

月曜日から金曜日（休日を除く）の午前9時～午後3時45分の間はセンタービル3階の保健室に常備薬を置き、怪我の応急処置に看護師が対応します。健康に関すること、毎日の暮らしに関すること、精神面のことなどの相談に対応するほか、気分の優れないときには休養室で横になって休むことができる場所となっています。

### - カウンセリングルーム

月に4～5回（火曜日または金曜日：12時30分～16時30分）、センタービル3階保健室2では、随時カウンセリングを行っています。臨床心理士の2名のカウンセラーが交代で対応します。

### - シャワールーム

ドリームコア6Fにあるシャワールームを利用することができます。

## 入 試

- 入学生の獲得に向けて、毎年、進学相談会を実施するとともに、夏にはオープンハウスを開催しています。
- また、入試に関する相談や学校見学は随時受け付けしています。
- 芸術系や情報系の他の大学教員に向けて、本学教員からの依頼状を添えて募集要項を送付し、入学生の獲得に取り組んでいます。

### iamas open\_house: 2021

2021年7月22日(木・祝)-23日(金・祝)の2日間にわたり、「iamas open\_house: 2021」を開催しました。

2020年度に引き続き、オンライン開催とすることにより、遠隔地からの参加を容易にするとともに、オンライン会場でのコミュニケーションを円滑に実現することを重視し、ボイスチャットやテキストチャットなどを活用して開催しました。

本学教員及び学生の研究成果や作品の展示、学校説明会、進学相談会などを実施し、本学に興味を持っていただいております方と、教員や在学生との交流を図りました。

### 進学相談会

#### 1.進学説明会

本学教育課程の主な流れと研究活動について紹介し、入試日程や入試方法、出願手続きなどについて説明しています。

#### 2.個別相談会

本学教員と面談して、作品制作、研究の進め方やIAMASの学校生活などについて相談を受けています。

\* 2021年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、すべてオンライン開催とした。

